

政策改革本部プロジェクトにかかる今後の方向性

プロジェクト	医療・介護連携と市役所の役割
--------	----------------

所管部	保健衛生部／福祉部
今後の方向性等	<p>【これまでの取組みの評価、認識】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○重点区（西蒲区・南区）プロジェクト ○全市プロジェクト ○国保保健事業 <p>→いずれも着実に事業を推進、今後も継続して取り組む</p> <p>【目指す姿、目標】「新潟市健康づくり推進基本計画（第3次）」</p> <p><目標> 健康寿命の延びが平均寿命の延びを上回る</p> <p><基本方針></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病の発症予防と介護予防 ・生活習慣病の早期発見・早期治療 ・生活習慣病の重症化予防 ・地域に密着した健康づくりの推進 <p>【2019年度取組みの方向性】「新潟市健康寿命延伸計画 [アクションプラン]」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○健診受診率の向上（タイプ別健診勧奨通知事業） ○食塩摂取量の抑制（ちょいしおプロジェクト） ○運動習慣の定着（ウォーキングチャレンジ） ○健康経営の推進（企業の取り組み支援） <p>【ポピュレーションアプローチの今後の展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市医師会・市歯科医師会・市薬剤師会などの保健医療関係団体を始めとする民間企業・団体との連携拡大 ○地域コミュニティ協議会等との連携拡大 ○学校等における健康教育の充実 <p>【医療と介護の連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○在宅医療・介護連携の推進 ○地域包括ケアシステムの深化・推進

政策改革本部プロジェクトにかかる今後の方向性

プロジェクト	人口減少・少子化時代における子育て支援のあり方 ▷こども施設の質の向上 ▷保育士の事務負担軽減 ▷子育てしやすさの評価向上
--------	--

所管部	こども未来部
今後の方向性等	<p><こども施設の質の向上></p> <p>・児童館、子育て支援センターについては、インタビューやアンケートなどにより、利用者から広く意見を聴取し運営改善につなげるなど、利用者満足度の向上を図った。また、公共施設全般について、施設の実態に応じて授乳スペースやおむつ交換台などを整備し、子育て世代に、より利用しやすい施設に向けた質の向上を図った。</p> <p>・引き続き、利用者の声を聴取する機会の設定と、これに基づく改善の取組が施設の自主性に基づき継続されるよう促すとともに、今後は特に、民間も巻き込みながら子育てにやさしい施設の充実・拡大に向けた取り組みを進めていく。</p> <p>(インタビューなどでの主な意見とその対応)</p> <p>【児童館・子育て支援センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ トイレが暗く、こわい <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 扉、壁などを改修し、明るい雰囲気 ➤ 新しい遊具があるとうれしい <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 絵本やパズル等の新しいものを増やした ➤ 玩具の衛生面が心配 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 舐めた玩具専用のかごを設置するとともに毎日消毒 ➤ 駐車場の台数が少ない <ul style="list-style-type: none"> ⇒ より多くの車が駐車できるように白線を引いたり、混雑時は近隣小学校の駐車場を借りるなどして対応

【公共施設全般】

➤ 授乳スペース、おむつ交換台などの整備等

⇒ コミュニティセンター等 17か所

⇒ 行政施設（区役所、出張所等） 17か所

⇒ 児童館・こどもの遊び場 13か所

⇒ 健康センター・地域保健福祉センター 11か所 など

<保育士の事務負担軽減>

・保育現場における多忙化解消と質の向上のため、これまで進んでいなかった事務改善について、区及び保育園と連携しながら根本的な見直しに着手した。

・見直しにあたっては20項目の課題をあげ、これまで事務書式の見直しや連絡便の廃止など、11項目について改善を行った。

・ワーキングでは20項目以外にも課題提議があったことから、未実施分と併せて、今後も区と保育園との連携や情報共有を図りながら、更なる業務見直しを進めることで保育現場の環境改善と保育士の満足度向上に努めていく。

<子育てにやさしい新潟市を目指した運動

（スマイルプラス運動）の展開>

・子育てにやさしい新潟市の実現に向け、すべての市民、地域、企業から、子育てに関心を持ち行動してもらえるよう、1「理解する」、2「小さな行動をする」、3「提供する」といった段階を示し、広報・啓発活動を行ってきた。

・今後も引き続き、賛同する各団体、企業等を拡大し、それぞれの取組を「スマイルプラス運動宣言」として発信していただくなど、民間との協働の中で広く広報・啓発等に努めていく。

政策改革本部プロジェクトにかかる今後の方向性

プロジェクト	新型 ICT を活用した政策改革 公民連携の推進 各部・区による自律的政策改革
--------	---

所管部	総務部
今後の方向性等	<p><ICT></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アプリ公開やタスクフォースでの活用検討から自律的政策改革へと進み，庁内での ICT 活用にかかる意識が相当に向上し，今年 1 月には ICT 活用戦略が策定され，現在は具体的活用策を掲げた実施計画の策定作業中ときいている。 ・戦略と実施計画に沿って様々な場面での実装を進め，政策の実践で活用していく。 <p><公民連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「企業との対話」により，民間の発想や手法を事務事業に反映させることは，今後より重要度を増していくものと認識しており，引き続き企業との対話の実践は継続していきたい。 ・指定管理者制度など民間のノウハウを公共施設の管理運営に活用する従来の手法も、市民サービス向上につながる改善を引き続き検討、実施する。 ・施設整備についても、民間のノウハウがより活かされると見込まれる場合は、PFI などの公民連携手法（PPP）の活用を検討していく。 <p><自律的政策改革></p> <ul style="list-style-type: none"> ・案件は概ね予定通り進捗しており，いずれの部区も真剣に取り組む，成果も出てきている。 ・改善・改革の意識は職員に浸透していると思われるが，今後は行財政改革の一層の推進と合わせて，自律的な政策の質の向上に取り組むよう，改めて庁内を促していく。